

令和4年度 第2回 長野市林業振興審議会 議事録(概要)

日 時：令和4年7月11日(月)午後2時～4時

場 所：第二庁舎 8階 282会議室

出席者：長野市林業振興審議会委員 12名

事務局 7名

次 第：1 開会

2 挨拶

3 議事 (1)長野市森林経営管理計画(案)について

(2)長野市森林経営管理計画策定までのスケジュールについて

4 その他

5 閉会

議事(概要)

議題(1)森林経営管理計画(案)について

資料 1-1, 1-2, 2に基づき事務局から説明

委員

P30に標準伐期が書いてあるが、今は長伐期施業がほとんどだと思うので、記載したほうがいい。

事務局

長伐期は標準伐期の2倍というのがあるので、ここで記載するような形をとりたい。

委員

日本全国この数字で、最短でこの齢ということだろう。統一されてるということで、なにかコメント付けた方がいいかもしれない。

委員

表記の問題だが、図の注釈は下、表は上で統一したほうがいい。

委員

P47の表で数字が抜けているところがあるので、ゼロなのかどうか入れた方がいい。

委員

標準伐採齢で、という書き方をしてあるが、長野市が作ってる市町村森林整備計画では、伐期齢という表示をしている、どっちが正しいのか。統一した方がいい。

委員

P23 の図で、この上の文章と合わせるのであれば、B材から出る矢印がいないかなと思う。C材が市場に行っているのも誤解を生むかもしれない。市場で分けられて結果C材になってしまうものもあるが、C材を市場に入れている訳ではない。

委員

これからどんどんそういうふうにしたいという気持ちが出たのかもしれないが、あくまで利用状況なので、現在の動きを示して欲しい。

委員

木によって成長はそれぞれなので元口のほうが必ずA材、とは限らない。現状でこうなっているかどうかということがはっきりしていないものを図にしていいのか。

但し書きでその生育状況とか、どういうふうに育ったかによって、A材とは限らないみたいなのがあるといい。

委員

市民の方はどんな材がA材、B材か分からないと思うので、その説明があった上で、模式図。流れの話。例えばこういう、こんな感じで分かれて、それぞれに流れていく。

「利用状況」だと、この図に現状どうなってるか、正確に図示する必要があり、それは無理なので、これはあくまで、こんな感じで流れるという1例ということで記載するようにしたほうがいい。

P29に搬出間伐による木材生産量1万5000 m³とあるが、これは8年度の目標で1万5000 m³なのか。主伐との関係はどうなるのか。

事務局

8年度の目標。現在の平均が1万m³くらいなので少しずつ増加させて1.5倍くらいを想定している。主伐についてはこの資料の中で入れていない。

主伐については、この目標数値指標では出さないということで、前回は木材の伐採ということで間伐も主伐も、両方合わせたものであったが、実際にその長野市で今木材生産行われてる主伐は1割ほどしかなく、メインは搬出間伐で木材生産がされてる。

また、量を測るといったときにも、面積ではわかるが、具体的な数字となると、搬出間伐はしっかり数字で出るものなので、それを指標としている。

事務局

P29の説明書きにも入れたが、長野市で森林について一番大元の部分としてこうやってきましょうという計画の、第5次総合計画に従ってるというところがある。

委員

この第5次計画はいつ立てられたものか。

事務局

後期計画として令和3年度。

委員

ここまで我々こだわって作っているのは、一般の方々が、長野市は今後の森林をどう誘導したのかということ、広く理解していただくためであって、上位計画をただ単に実行するだけなら意味がない。上位計画がある、というだけでは不親切。

まず間伐だけが指標とされてるということを説明しなければいけない。そして主伐に対してはこう考えるという、数字はなくてもいいけれども、何か話があってもいいと思う。

上位ほど、確かに根幹を絞ってくるが、最後についてはそんなにきつくない、というのが本来の計画の上下の階層のあり方。

主伐については伐期を80年ぐらいから90年ぐらいにしたい、そういうふう考えた場合には今、面積量的にはこれぐらいありますよ、ぐらいの記載があってもいい。

委員

P29の確認だが、令和8年度までに年間生産量を1万5000m³にするという目標なのか、令和8年の生産量の目標が1万5000m³なのか。

委員

令和8年度の生産量が1万5000m³ということが大事なのではなくて、8年度に1万5000円なるようにこれからどんどん、徐々に上げていきますよということか。

事務局

そうである。

委員

そのために図があり、P30以降の具体的な事業の計画が出てきてるというふうに見ていけばいいということか。

なぜそこにこだわってるかという、指標というのは代表選手で、代表選手がそこを目指していくことは、それに伴って関連事業がみんな行くので、指標にする意味があるというふうに言うのが普通で、そこはこだわっておいてもいい。

事務局

この計画を進めることの中で代表の数字として1万5000 m³ということによい。

委員

P30の第1章で、立木の伐採とあるが、これは主伐か。

指標はあくまでも間伐、搬出間伐の生産量が1万5000 m³ということだが、主伐はやらないわけじゃないのか。

真ん中の方で、皆伐・択伐と出てきていて、立木の伐採の標準的な方法とあるが、これも主伐でよろしいか。

単語が統一されてないのでチェックされた方がよいのかなというふうに思う。

委員

先ほど主伐は量の算出が困難とおっしゃっていたが、もし主伐も伐採量が分かれば1万5000 m³の中に含めるのか。間伐だけというのは何か違和感がある。市内の主伐がゼロでないのなら何かしら計画に入れた方がいいと思う。

委員

今は主伐はほとんどスギなのか。何年生ぐらいなのか。

委員

大体もう60年超えたあたりで間伐の補助要件も外れている。

委員

そうすると、言われてるようにそろそろ主伐の時代に入ってきて、国有林はもう主伐にかなり手を入れている。

P8の上の図を見ると、スギは70年生の山が来てる、主伐してもおかしくない山がこれからどんどん出てくるような状況に入っていくので、そういう状況の説明はやっぱりあった方がいい。

それこそ今、ウッドショック等があり、国産材をやっばりもっと活用していきましょうという流れがある。これはすごく林業界にとってありがたい。起爆剤になりうる。

その中でやっぱり主伐の数値化、具体的に数字ができるかどうかって検討する必要あるが、間伐だけの話だとちょっと不足かなと思う。

これから主伐をするにあたってがむしろ、計画が大事になってくるはず。また、次の植栽もペアになってきて、そこでこの計画案の、存在意義が出てくる。まだその段階ではないかもしれないが、そこがもう迫りつつあるということをやっぱりしっかり認識しておくべき。

例えば、70年生のスギ人工林は少なくとも長野市内にはどのぐらいの面積があるのか、標準的な蓄積があるならば、全体でこのくらいになってるはずだ、と書いて、今後それがさらに増加してくるので、今後その利活用について、考えていきたいくらいは書いてもいいのではないかな。

その上で、今回は上位計画との関係もあり、指標として1万5000 m³に、8年の間で間伐については到達するというはまず一応目標として持ちますという流れにしてP30以降との整合性もとってもらえればよろしいかなと。

委員

国有林では山を育てるというところから、木材を活用するという方向にいつてるというところで、確かに今まで植えた木がだんだん大きくなって、間伐で保育をしたけれども、これを利用しなきゃいけないということで、皆伐する時代に来たよというところに移ってきている。

それと、平準化というところ。今の山を平準化するというのを考えたときには、どうしても切っていかなきゃ、平準化にならないという、そういったところをもう少し示すべき。

委員

主伐のことも文章で書いて欲しいという話があったが、ごもつともで、主伐があつて、あと搬出間伐と切り捨て間伐がある。

市としては切り捨て間伐を減らして、搬出間伐をふやしていきたいという意向と感じた。であれば、3点はどうしても抑えないと全体が見えてこないなので、言葉でもいいので抑えてもらいたい。

やはり一番の骨格がぶれていると、全部ぶれてしまうので、そこはしっかり抑えてもらいたい。

委員

できるだけシンプルにまとめていらっしゃっていいなと思っているので、あまりいろんな肉づけをするというよりは、P29は、「指標と目標値の取り扱い」みたいに書いてもらって、主伐とか、切り捨て間伐について、あと国有林や県にの関連する施策とも連携しながらやってく目標ですよ、というのを、はっきり書いたほうがいい。何か本文に書くよりは、ちゃんと資料の取り扱いってものをわかりやすくしてもらえれば、それが一番い

いのかなというふうに感じた。

委員

昨年の資料でカメラルタキセ式というのがあったが、齢級を平準化する方向に向けるためにどのくらい年伐量を設定すればよいかということの指標として出てきた。平準化は、主伐でよってのみ進めていくことができるが、去年出た数値は間伐も含めていて、間伐を幾らしても平準化に向かえないので、これは間伐と主伐をちゃんと分けたほうがいいという意見があった経緯がある。

今回主伐について記載がなくて、確かに量的にはまだ少ないから、入れるべきか私も判断できないが、なぜ式を使ってそういうことをやろうとしたかというところ確認いただいた上で、もう1回見直していただければ。

委員

P29の目標値。どうやって増やしていくという、方法についてが書いてない。長野市の中で、こういう計画でやっていくっていうのは示されているのか。

主伐も1万5000 m³っていう数字も、利用が促進されれば勝手に増えていくかとは思いますが、利用促進について、計画・具体例があるのか。どうやって1万5000 m³まで上げるのかなという疑問がある。

事務局

引用元の第5次総合計画に記載があり、増やしていくための基本的な方針として、この計画の中で、整備を進めたり、従事者を確保したり、ふれあいを進めたり、木材利用を増やしたりなどが定めてある。

委員

今までも間伐などしてきたと思うが、譲与税が入ってきて、今までと違う部分、さらに促進するための計画はあるのか。木材利用する場所を拡大して、主伐間伐も増やしていくという、そういった具体的な話はあるのか。

事務局

P15のところ、今まで境界がわからなかったりでなかなか進まなかった場所を、図16にもあるが、こういった方法でさらに増やしたり、林業従事者についても、新しく雇った方に対して支援をするという、具体的なことは、この計画に載せてある。

委員

計画を市民の皆さんに、お示しをして理解をしていただくのは、今、地球規模で見たと

きに、木材が非常にうまくいってない、戦争も起こっていて、使われるべきところにまわっていないかったり、日本を見ても、資源があるのにもかかわらず、流れていないということで、木材が長野市で使われるだけではなくて、よそに売って使ってもらえることもいいと思う。

国が譲与税を作ったまで、市民の皆様から税をいただいてまでそういうふうにしよとしていくのは、なかなか売れない、その主伐ができないから。

それはなぜかって言ったら、手入れがされていないから、その手入れをするのが、間伐であって、搬出もあって、切り捨てっていうその譲与税を使った、こういう事業がありますよっていうことが書かれていて、森林の整備としては、こういうことがあります、といった説明があってもいい。

P29にその管理を進めるための指標と目標値っていうのが急に出てきてしまったために、流れていくべきところで引っかかってしまう。

ここは数字とかにこだわらず、うまく流れて、こういうことなんだなってイメージを読んでいる方に分かっていたできるようにしてほしい。

委員

主伐というのは、基本的に環境譲与税を使えない。それを誤解されてしまうのはよくない、全部使えるんだと思われる可能性もある。

皆伐したらこの後譲与税で保育・整備をしていくというアピールにもなってくると思うので、主伐の位置づけを確かにしといた方がいいのかなと思う。

委員

P29の※印の内容は逆で、間伐は保育で、材積を目的にするものじゃないので、こういうことをに数式的に合う形で書くと、林業的に誤解もある。あくまで保育は面積。

齢級配置からして、大体150haずつぐらい今後やっていかないと主伐までに保育が間に合いませんよということが第5次計画の中で計算しているのではないかと思う。そうすると、結果として大体平均的に、1haあたり100m³ぐらいが間伐をするので、年間トータルで1万5000m³の間伐生産が、大体の指標になるかなという計算の仕方だと思う。

今の書き方だと材を確保するために間伐するのかというような誤解を受ける可能性があるから、あくまでもいい山を作っていくって、主伐時によりいい材を生産するところの間伐ですってことにつなげるためにもお気を付けいただきたい。

議題(2) 森林経営管理計画策定までのスケジュールについて

資料3に基づき事務局から説明

意見：特になし